

人間を幸福にしない新自由主義の時代

幸せだった20世紀後半

90年代から遠慮なく利益追求

6月27日(日)に行なわれた第46回幹部学校にて、法政大学教授の山口二郎さんに「新自由主義の終わりと市民連合の役割」と題して講演いただきました。資本主義の歴史をたどりながら、コロナ禍に直面した日本と世界を語ったその内容の一部をご紹介します(文責・見出し共、編集部)

資本主義経済は19世紀からおよそ2000年続いている。私たちが経験してきた20世紀後半の資本主義は、極めて異質で例外的なもので、その時代の記憶で資本主義が人間を幸せにすると思うのは間違っている。20世紀後半の資本主義はフォードイズムとも呼ばれる。アメリカの自動車会社、フォードが生産方式の革命を実践して、自動車の値段が3分の1に下がって爆発的に売れた。フォードはそこで儲か

ったお金を二部賃上げとして労働者に還元、これがフォードイズムの循環だ。賃上げで需要が増えれば、生産を増やすために設備投資をしてそれが更にイノベーションを起すといった好循環が続いた。20世の後半の資本主義がなぜ労働者を幸せにしたかという点、やはりソ連、社会主義というライバルがいたからだ。やらすぶったくりで労働者を搾取していたら、そのうち不満が溜まって革命が起きてしまつたので、ある程度分配をしたということだ。20世紀後半は、資本主義の下で人間は幸せになれるということを証明するという問題意識を資本主義経済のエリート達も持っていた。

民主主義の前提とは

共同体の利益を考える余裕

実は民主主義と市場経済はまことに相性が悪い。民主主義の前提は、人間はその自分が所属する共同体のことを考えることができるという点にある。これが民主主義の前提だ。しかしながら規制緩和の全面展開で非正規労働、低賃金労働が増えると「手から口への生活」となる。その日その日がもう目一杯で余分な事を考える余裕がない状態になる。もう一つ、グローバル

資本主義においては移動が賛美される。生産拠点工場もほとんど賃金の安い新興国に移す、金持ちはシンガポールなどに移住、あるいはタックスヘイブンに拠点を移すという格好でその所属とか帰属というものを軽んじるのがグローバル資本主義だ。



山口二郎 法政大学教授

他方で民主主義は所属や帰属を大事に、自分が生まれ育った国とか自治体のあるべき姿、自分たちが幸せになるためには国とか社会がどうあるべきかを考える。金儲けのためにどこへでも行くのであれば特定の国や自治体に忠誠心や関心を持たなくなり、民主主義を担う人間がどんなに

いた。

1990年代にグローバル資本主義が出現した。ソ連など社会主義陣営がなくなって市場経済に世界中のほとんどの国が入ってくるという時代になると、労働力が値崩れを起し長期安定雇用が終わった。社会主義というライバルがなくなったら、もう資本主義の方は遠慮なく利益を追求するという野蛮な姿にもどった訳だ。

これは企業の収益と雇用者報酬の変化を示したグラフだ(下記図表)。2000年あたりを境に大きな変化が起きて、つまり90年代までは労働者を幸せにする資本主義の時代で、会社が儲かったら給料も上がる、会社が儲からない時は給料も下がる。これが私のような60歳前後の人間にと

つての常識だった。しかし、2000年代以降になると会社は儲かっても給料が減ってしまう。もったいぶ給料を減らすから会社が儲かるという時代になった。

コロナ禍 市場の限界が露呈 政治の責任で公共的課題を

一個一個の企業が合理的な行動をとってもそれを社会全体で合算すると、とても不合理な結果が起きる、これを合成の誤謬(ごびゅう)と言う。まさに90年代後半から2000年代日本で起こったのはこの合成の誤謬だ。個々の企業

がグローバル競争に勝ち残るために一生懸命コストカットする。生き残るための合理的な行動だが、社会全体で見ればそのためにとりわけ若い人々が安定した仕事につけない。そして家族も持てないゆえに人口減少が加速するとい

アメリカの政策転換 最賃上げて労働組合を支援

公共サービスの立て直しは、ヨーロッパでも改めて認識されている。イギリスのNHS(国民医療サービス)を公営のまま維持していくという運動の作った意見広告のボスターに「アイキャシーアップローズ」

今、新自由主義からの転換が実際に起こっているのがバイデン大統領のアメリカで、すくなく断然な政策を次々出している。バイデンは雇用増を

う結果になった。この合成の誤謬を是正することこそが政

する病院が足りない。医療難民が発生した大阪は特にひど

とある。イギリスでも医療従事者に感謝しようといふなんて拍手していたが「Apple use(拍手)を食べること

第一に掲げていて、それから労働組合をしかりと支援する。中産階級がこの国を作

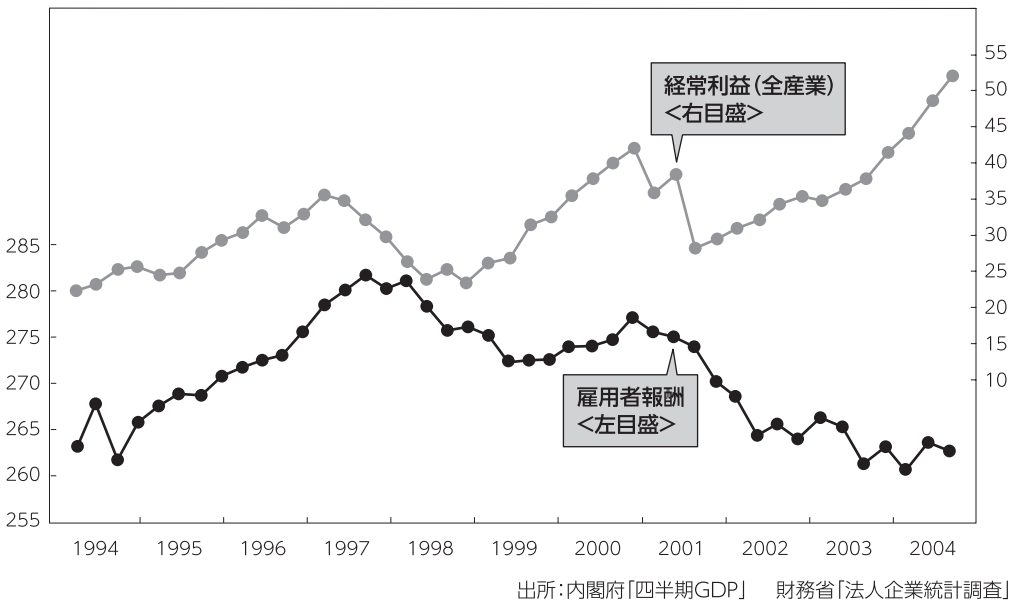
ったのであり労働組合が中産階級を作ったのだと。それから最低賃金を時給15ドル、1600円ぐらいに引き上げて

男女の同一賃金という法律も作るうと言っている。週40時間働いて貧困水準を下回ってはダメだと。これを日本で一

番強く言っているのは共産党だ。つまりグローバル資本主義の矛盾を追求していくとアメリカ大統領も日本共産党も同じ主張になるということ

だ。おもしろい時代が来た。

企業収益と勤労者所得の乖離



2000年を過ぎたあたりから、経常利益が上がっても、雇用者報酬は逆に下がっていく

治の役割のはずだ。このコロナ危機を、人間を大事にする世の中を作るための大きな政治的な契機にするということが出来るはずだ。民間の医療法人が、経営という観点からコロナの患者に

なるべく関わりたいくないと思うのはそれこそミクロな合理性だ。日本は人口比で見ればかなり

のベッド数がある。しかしながらコロナの患者を収容

の患者が足りない。医療難民が発生した大阪は特にひど

とある。イギリスでも医療従事者に感謝しようといふなんて拍手していたが「Apple use(拍手)を食べること

はできない」と。拍手では腹は膨れないというわけだ。また、このボスターの下の方には、「今回の選挙ではもうちょっともののわかった人に投票しよう」とも書いてある。我々が今まさに参考とすべき教訓といえる。

今、新自由主義からの転換が実際に起こっているのがバイデン大統領のアメリカで、すくなく断然な政策を次々出している。バイデンは雇用増を

第一に掲げていて、それから労働組合をしかりと支援する。中産階級がこの国を作

ったのであり労働組合が中産階級を作ったのだと。それから最低賃金を時給15ドル、1600円ぐらいに引き上げて

男女の同一賃金という法律も作るうと言っている。週40時間働いて貧困水準を下回ってはダメだと。これを日本で一

番強く言っているのは共産党だ。つまりグローバル資本主義の矛盾を追求していくとアメリカ大統領も日本共産党も同じ主張になるということ

だ。おもしろい時代が来た。